

天理大学での 2010 年度研究大会 プログラム固まる

1. 宿泊とアクセスについて

2010 年度 (第 39 回) の研究大会は、2010 年 10 月 23 日 (土)・24 日 (日) の両日、天理大学 (奈良県天理市) で開催され、本年度も Japanese Society for Slavic and East European Studies (JSSEES) との合同大会となります。

研究大会プログラムを送付しましたので、出欠連絡用ハガキにご記入の上、**9 月 25 日まで**に大会開催校宛にご返送ください。本年、平城遷都 1300 年記念を迎えるとともに、秋の観光シーズンでもありますので、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

なお、奈良県内のホテルは混雑が予想されますので、参加される会員は宿泊先の早めの手配をお勧めします。天理市内にはホテルが少ないため、JR奈良駅、近鉄奈良駅周辺を中心に、近鉄新大宮駅周辺、近鉄橿原神宮駅周辺のホテルが推奨されます。奈良県内で適当なホテルが確保できない場合は、京都駅周辺、近鉄難波駅周辺のホテルをご利用ください。天理駅までは、大阪や京都から約 1 時間でアクセスできます。

天理駅から天理大学までは徒歩で約 25 分、タクシーで約 5 分です。土日は大学行きのバスはありませんのでご注意ください。アクセスは、天理大学HP

(<http://www.tenri-u.ac.jp/info/Access.html>) をご参照ください。

また、大会開催校である天理大学のご好意により、大会 2 日目の昼休みに、天理教教会本部の見学会も実施される予定です。ぜひご参加下さい。

2. 研究大会プログラムの特徴

本年度研究大会の特徴は、次の 2 点です。

まず、共通論題は「体制転換の 20 年—ロシア・東欧の軌跡—」がテーマとなり、1989 年の東欧における体制変動、1991 年のソ連崩壊から今日までを「20 年」ととらえ、この時期をどのように見たらよいかについて議論します。

午前の第 1 セッション「日常の中の体制転換」では、20 年目の“いま”に焦点を当て、人々の日々の暮らしという観点から、体制転換が何をもたらしたのかについて考えます。午後の第 2 セッション「歴史の中の体制転換」では、この 20 年を“より長い歴史”の文脈に置いたとき、どのように位置付けることができるかについて考えます。

研究報告とパネル・ディスカッションの 2 部構成となり、研究大会 1 日目の午前と午後に向向の異なる 2 つのセッションが実施されます。司会、報告者、討論者、パネリスト合わせて総勢 10 名が参加するという充実した内容となっております。

次に、自由論題ですが、従来は当学会と JSSEES がそれぞれ並行開催する方式でしたが、本年度から完全な合同開催となります。当学会と JSSEES 受付分の自由論題報告が、所属学会を越えた形で分野別の同一の分科会で構成されます。両学会による合同研究大会が、より一層進化することとなります。自由論題では 11 件の研究報告が予定されており、そのうち約半数が院生による報告です。

3. 報告要旨、報告用ペーパーの学会 HP への掲載

報告要旨集 (大会当日に冊子で配布) 及び報告用ペーパーを、学会 HP にて大会前に掲載します。10 月上旬頃からアップしますので、ぜひご覧ください。特に、報告用ペーパーは、大会当日に報告者から配布されない場合がありますので、事前に HP から印刷の上、大会当日にお持ちいただきますようお願いいたします。

広報委員会が発足 対外広報のあり方を検討

上野代表理事の新たなイニシアティブの下、より広くロシア東欧学会について知っていただき、広報活動を充実していくため、学会の広報委員会が設置されました。そして、去る6月27日の理事会で、以下の若手研究者が広報委員に選出され、広報委員会が正式に発足しました。力不足ではありますが、頑張りますのでどうぞ宜しくお願い致します。

委員長：富山栄子理事（事業創造大学院大学）

委員：大中真会員（桜美林大学）

岡田美保会員（日本国際問題研究所）

浜由樹子会員（津田塾大学）

横川和穂会員（日本国際問題研究所）

早速、広報委員会メンバーによって、メールで、ロシア東欧学会のHPに関する意見交換を行い、それを基に新たな改善提案がなされました。その結果を去る理事会にて富山より報告させていただきました。主な内容は以下の通りです。

1. 現在のHPに関する意見

(1)他の学会のHPと比べても、レイアウトや構造、の面でも遜色なく、よくできている。全体的にシンプルですっきりしており、使い勝手も良い。情報が多すぎるとかえって見づらい。特にトップページは、あまり下までスクロールする必要のないものの方が良い。

(2)デジタルアーカイヴ化にいち早く対応している点も評価できる。

(3)担当者に過剰に負担のかからない程度の内容でよい。

2. HP改善に関する提案

(1)学会設立の主旨があれば、掲載してはどうか。

(2)リンクをページトップに張らずに、リンク項目をクリックしてから開けるようにした方がよい。

(3)ロシア東欧関連の奨学金や留学助成制度案内の項目を設けてはどうか。（相手先から許可を得るなどの問題があるかもしれないが、学会員（特に若手）と訪問者にとって有益。

例：

- ・秋野豊賞（秋野豊ユーラシア基金）
- ・若手研究者等フェローシップ（旧小渕フェローシップ、日露青年交流センター）
- ・日本語教師派遣事業（同上）
- ・外国政府による海外留学奨学金。具体的にはスロヴァキア、チェコ、ハンガリー、フィンランド、ポーランド、リトアニア、ロシアの各国政府（日本学生支援機構）
- ・鈴木・中村基金奨励研究員（北大スラ研）

(4)トップページにロシアや東欧の写真を掲載すると華やかになるのではないかと、ただ、趣味の問題もあり、学会としてシンプルの方が良いのであれば、今のデザインでよい。（例：リンクの貼ってあるロシア史研究会（<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssrh/index.html>）

(5)トップページのタブは日本語表記、もしくは日英併記の方が分かりやすい。タブに **Information** と **Meeting** があるが、両方理事会関連の内容なので、内容的に違いが若干分かりにくい。

(6)「**about us**」（学会の概要や歴史を簡単に説明したページ）に該当するコーナーを作る（現行でも、「会則・規定」のところへ行けば学会の趣旨や目的は書いてあるが、非会員が訪れることを想定すると、もう少し目立つ形がよいのではないかと。）

(7)「**Topics**」：トップページに掲載する分は各件1-2行、件数は3-5におさえ、その分、そこから直接詳細記事に飛べるようにしてはどうか。

（例えば、現在掲載中の「**NewsletterNo.20** をアップしました」の記事は、そこから「**Publication**」を経ずに直接記事にジャンプできるよう設定するなど、操作の簡素化を進めてはどうか。今後はPCだけでなく、スマートフォンやiPad等の機器からのアクセスが増える可能性を考えると、操作はシンプルで、操作数も少ない方がよい。

(8)HPを「お気に入り」に追加すると、「お気に入り」のタブ内でサイト名の先頭に付くアイコンがあるとよいかもしれない（学会にロゴがあるわけではないので難しいかもしれないが）。

今後も、ロシア東欧学会を盛り上げていけるよう努力していく所存です。どうぞ宜しくお願い致します。

（広報委員長 富山栄子）

若手研究者に対する 研究奨励制度を導入

院生など若手研究者を取り巻く研究環境が厳しくなっていること、学会の繰越金が一定額に達したことから、若手研究者の学会活動を支援する目的で、繰越金の中から 100 万円を「若手研究者研究奨励基金」に充当し、以下のような研究奨励制度を創設することが、6 月 27 日に開かれた理事会で決定されました。

なお、本制度の正式な導入は、次期研究大会時の総会にて承認を受ける必要があります。

1. 研究奨励賞の設置 (40 歳未満の全会員を対象)

学会誌『ロシア・東欧研究』への投稿を奨励し、投稿論文の水準向上を図る目的から、学会誌に掲載された若手研究者による論文の中で、特に優れたもの、あるいは研究の発展性が見込まれるものに対して、研究奨励賞 (賞状及び副賞 5 万円) を授与します。対象者は、論文投稿時に 40 歳未満の全会員とします。

選考方法は、会誌編集委員長が査読評価の高い論文の中から数編を候補として提示し、理事会で選任された選考委員会が審査を行い、原則として毎年受賞者 1 名を決定し、理事会が最終承認を行います。

初回に関しては、第 37 号 (2008 年版) 及び第 38 号 (2009 年版) の 2 号を選考対象とし、既に選考プロセスが開始されています。次期研究大会時には第 1 号の受賞者が公表され、総会の際に授与式が行われる見込みです。

2. 研究大会報告者への旅費・懇親会費の助成

(院生会員、2010 年～2012 年の研究大会を対象)

研究大会における研究報告を奨励し、研究報告の水準向上を図る目的から、研究報告を行う院生会員に対して、大会開催校までの旅費及び懇親会費 (上限 2 万円) の一部を助成する予定です。

本制度は 3 年間の時限措置とし、2010 年度 (天理大学)、2011 年度 (東京国際大学)、2012 年度 (開催校未定) に実施される研究大会を対象とします。本制度の継続は、学会の財政状況や制度の効果等を勘案して、理事会が決定します。

対象者の条件は、①助成を受けようとする年度も含

めて年会費を納めていること、②他から旅費等の支給を受けていないこと、③助成を受けた後も学会活動を継続する見込みであることとします。本助成を受ける研究大会報告者は、研究報告を学会誌に投稿することが期待されます。

導入が正式に決まりましたら、該当者に対して事務局から詳細をご案内します。

3. 院生幹事の導入

学会と院生会員との間のコミュニケーション及び院生会員間のネットワークの強化を目的として、院生幹事を設けます。

院生幹事は、メーリング・リストや掲示板、研究大会時の院生連絡会などを活用して、院生会員間において研究情報等の共有を図るとともに、院生会員の声を学会活動に反映させるため、大会開催校や事務局を通じて学会との連携を図ります。

研究報告や論文投稿など、既に一定の学会活動歴のある院生会員を対象とします。若干名を公募した上で、理事会が選任します。大会開催校までの旅費 (上限 2 万円) も支給する予定ですので、ご関心のある方は事務局まで振るってご応募ください。

最近の理事会議事録より

2010 年度第 1 回目の理事会が、2010 年 6 月 27 日に上智大学で開かれ、以下のような報告及び審議が行われました。

1. 事務局会務報告 (兵頭事務局長、防衛研究所)

(1) 最新号を除く学会誌の全てのバックナンバーが電子アーカイブ化され、科学技術振興機構 (JST) が運営する Journal@rchive に掲載されたことが報告された。

(2) ニューズレター第 20 号が 4 月末に発行されたことが報告された。

(3) 4 月末に本年度年会費の案内を送付したが、6 月 24 日時点の会費納入率は、法人会員 (4 法人) が 75%、一般会員 (305 人) が 49%、シニア会員 (28 人) が 79%、院生会員 (53 人) が 36% であり、会員

ロシア・東欧学会ニューズレター

全体（397人）では49%であり、引き続き、納入の案内を行っていくことが報告された。

（4）会員登録情報の確認作業を経て、秋に会員名簿を改定することが報告された。

（5）入会者6名[下表参照]、申請による退会者6名が承認された。また、3ヵ年会費未納者が14名おり、2010年末までに支払いがない場合は退会扱いとなることが報告された。

（4）2009年度決算が確定し、当初予算より支出額が100万円以上少なく済んだこと、岩田昌征、皆川修吾両会計監事による会計監査が終了したことが報告された。2010年度予算案については、繰越金を財源とする若手研究者奨励基金（100万円）を予算から別立てにしたことが報告され、2009年度決算及び2010年度予算案が承認された。

（5）前回の理事会で提起された会費の見直しについては、会員数が減少傾向にある中で、学会の財政状況を適切に評価した上で再検討することが合意された。

2. 編集委員会報告(吉井編集委員長, 神戸大学)

（1）5月末に第38号が刊行されるとともに、9月末日締め切りで第39号の原稿を募集することが報告された。

（2）電子ジャーナル化に伴う誌投稿規程、執筆要領の見直しが承認された。

3. 若手研究者研究奨励制度

（1）学会と院生会員との間のコミュニケーション及び院生会員間のネットワークを強化するため、院生幹事の制度を導入することが承認された。

（2）若手研究者研究奨励基金を設置して、40歳未満の会員を対象として本学会誌に掲載された優れた論文に対する研究奨励賞（賞状、副賞5万円）を設置

すること、院生会員を対象として研究大会報告者等への旅費助成制度（上限2万円）を導入すること、が承認された。

4. 2010年度研究大会について

（1）五十嵐大会実行委員長（天理大学）より、10月23・24日に天理大学で開催される2010年度研究大会について、会場確保などの準備が進んでいること、宿泊先を早期に確保する必要があること等、が報告された。

（2）小森田企画委員長（神奈川大学）より、共通論題企画案「体制転換後の20年ーロシア・東欧の軌跡」及び自由論題企画案が報告され、一部を除いて承認された。兵頭事務局長より、研究大会全体のプログラム案について、JSSEESとの調整状況が報告され、自由論題報告の分科会はJSSEESと合同で組織することが承認された。

5. 広報態勢の見直しについて(富山広報委員長, 事業創造大学院大学)

（1）前回の理事会で承認された富山広報委員長（事業創造大学院大学）に続き、大中真（桜美林大学、編集委員兼任）、岡田美保（日本国際問題研究所、ニューズレター編集担当）、浜由樹子（津田塾大学）、横川和穂（日本国際問題研究所）の各会員が広報委員として承認された。

（2）富山広報委員長より、HP改善案に関する広報委員会における検討結果が報告された。（詳細については、5ページを参照）

6. その他

欠員理事の補充は、当面、見合わせる事が了承された。

新入会員(2010年6月理事会承認分, 受付順, 敬称略)

氏名	所属	専門分野	推薦者(署名順)	
安木新一郎	大阪国際大学ビジネス学部	ロシア貨幣経済論, 極東地域研究	上垣彰	田畑伸一郎
西山美久	九州大学大学院博士後期課程	現代ロシア政治, 比較政治学	上垣彰	高山英男
杉山正樹	北陸日本海経済交流促進協議会	産業構造論, 極東ロシアの農業	堀江典生	雲和広
立石洋子	東京大学大学院博士課程修了	ロシア, 旧ソ連史	塩川伸明	小森田秋夫
武田友加	一橋大学経済研究所	ロシア経済論, 移行経済論, 開発経済学	五十嵐徳子	雲和広
佐藤貴之	東京外国語大学大学院博士課程	ソビエト文学	上野俊彦	村田真一

2009 年度決算及び 2010 年度予算案

収入の部				
	2009 年度予算	2009 年度決算	2010 年度予算案	
前年度繰越金	5,660,010	5,660,010	6,339,315	
会費 (注1)	一般会員	2,820,000	2,882,000	2,690,000
	シニア会員(注2)			110,000
	院生会員	210,000	178,000	170,000
	法人会員	60,000	80,000	80,000
	維持会費	20,000	15,000	0
寄付	20,000	41,312	40,000	
利息	1,500	475	500	
雑収入(学会誌広告掲載料等)	80,000	160,000	100,000	
当年度の収入合計	3,211,500	3,356,787	3,190,500	
収入総計	8,871,510	9,016,797	9,529,815	
支出の部				
	2009 年度予算	2009 年度決算	2010 年度予算案	
研究大会開催費	300,000	283,043	300,000	
会誌発行費	1,200,000	893,732	800,000	
ニューズレター発行費	100,000	68,675		
広報費(注3)			200,000	
事業費(注4)	40,000	35,000	40,000	
事務局費	400,000	399,672	300,000	
事務用品・コピー代(注5)	50,000	48,203		
会議補助費	700,000	630,536	700,000	
選挙管理費	100,000	81,784	0	
会員名簿作成費	100,000	0	150,000	
送料・通信費	200,000	116,895	150,000	
郵便振替料金・銀行振込手数料	40,000	41,262	50,000	
予備費(注6)	500,000	78,680	500,000	
当年度の支出合計	3,730,000	2,677,482	3,190,000	
若手研究者奨励基金			1,000,000	
次年度への繰越金	5,141,510	6,339,315	5,339,815	
支出総計	8,871,510	9,016,797	9,529,815	

注1 2010 年度予算案は、正会員 83%、シニア会員 90%、院生会員 70%、法人会員 100%の納入率で試算。

注2 2009 年度予算・決算の一般会員にはシニア会員を含む。2010 年度予算案よりシニア会員の項目を独立。

注3 2010 年度予算案より新設（ニューズレター発行費、ホームページ管理費、電子アーカイブ化関連費用）。

注4 日本ロシア・東欧研究連絡協議会(JCREES)及び地域研究学会連絡協議会の分担金。

注5 2010 年度予算案より事務局費に統合。

注6 2009 年度決算は、理事会開催時の施設使用料、ホームページ管理費。

若手研究者育成政策の強化 に関する要望書を提出

ロシア・東欧学会など19の地域研究学会が加盟する日本学術会議の下部団体にあたる「地域研究学会連絡協議会(JCASA: Japanese Council of Area Studies Associations)」において、若手研究者育成政策の強化に関して以下のような要望書を提出することになり、本学会も名前を連ねることとなりました。なお、2009年にも同様の要望書を提出しております。同協議会担当の羽場久美子理事には、同協議会の活動に関して多大なるご尽力をいただいております。

要望書

行政刷新会議「事業仕分け」第3作業部会において、若手研究者育成に関わる競争的資金（日本学術振興会特別研究員事業、科学研究費補助金若手研究（(S), (A), (B)））、テニユアトラック制支援などに関する科学技術振興調整費）の大幅な縮減が求められました。この判断を、地域研究の発展に寄与するための諸学会の連合である地域研究学会連絡協議会は、不適切であると憂慮します。

人文科学・社会科学の分野において、学術研究の成果はすぐに表れるものではありませんが、若手研究者への支援は将来への投資と見なせるものです。縮減の対象となった競争的資金はそれなりの高い競争率をもち、優れた若手研究者を育成してきたもので、生活補助を目的として運営されてきたものではありません。また若手研究者はわが国の学術研究発展の重要な担い手となってきました。

我々は、若手研究者育成に関わる競争的資金の縮減が、日本による世界の諸地域の総合的理解と諸地域間の相互理解の推進を大きく損なうと憂慮し、中・長期的視野に立った学術研究推進の財政支援が一層強化され、その中で若手研究者に対する体系的な育成・支援策が示されることを強く要望します。

地域研究学会連絡協議会

研究奨励賞の選考始まる 選考委員会が発足

既にお知らせしましたように、学会誌『ロシア・東欧研究』への投稿を奨励し、掲載論文の水準向上を図る目的から、学会誌に掲載された若手研究者による論文の中で、特に優れたもの、研究の発展性が見込まれるものに対して、研究奨励賞を授与することが先の理事会にて決定されました。これを受けまして、以下のように選考作業が開始されました。

1. 会誌編集委員長による候補論文の選定

第一次選考としまして、学会誌に掲載された40歳未満（投稿時点）の会員による論文のうち、査読評価の高いものなど、会誌編集委員長が候補論文を選定しました。なお、今回のみ、第37号と第38号の2号が選考対象となっております。

2. 選考委員会による最終選考

候補論文の専門分野を考慮し、当学会が学際的な地域研究学会であることを踏まえて、以下の5名の理事の先生方に選考委員をお願いすることとなりました。なお、選考委員の任期は1年です。

2010年度研究奨励賞選考委員会（五十音順）

委員長：宇多文雄理事

委員：伊東孝之理事、香川敏幸理事、

木村崇理事、藤本和貴夫理事

選考委員会は、候補論文の中から最終選考を行い、選考理由を添えて選考結果を代表理事に提示することとなっております。現在、その作業が進行中です。

3. 受賞者の公表と表彰

天理大学における研究大会時の総会において、研究奨励賞第1号の受賞者が公表されるとともに、賞状と副賞が代表理事から手渡される予定です。

研究奨励賞の導入により、若手研究者による学会誌への投稿が活発化することが期待されます。

研究大会報告者の皆様へ

1. 報告要旨

報告要旨集は、大会当日に冊子を配布いたしますとともに、学会HPにも事前に掲載する予定です。共通論題及び自由論題に関しましては報告要旨、パネル・ディスカッションに関しましては発言要旨の作成をお願いします。タイトル、お名前、ご所属を明記の上、A4用紙1枚以内にまとめて、9月10日までに事務局宛にメールにてご送付ください。スタイルやレイアウトは、事務局にて統一させていただきます。

2. 報告用ペーパー

報告用ペーパーを作成される場合には、10月10日までに事務局宛に電子ファイルをご送付ください。学会HPに掲載させていただきます。必要あらば、座長(司会)、討論者に対して事前に送付してください。

3. 大会当日

(1) 報告用ペーパー、レジュメ、資料など、事務局及び大会開催校では配布物のコピーをご用意できません。お手数ですが、必要部数を各人がご用意ください。報告用ペーパーにつきましては、HP掲載をご利用ください。

(2) 機材の使用

パワーポイントなど、機材の使用が可能です。詳しくは、大会開催校までお問い合わせください。

4. 院生会員への旅費・懇親会費の助成

研究大会における研究報告を奨励し、研究報告の水準向上を図る目的から、研究報告を行う院生会員に対して、大会開催校までの旅費及び懇親会費(上限2万円)を支給する予定です。

対象者の条件は、①助成を受けようとする年度も含めて年会費を納めていること、②他から旅費等の支給を受けていないこと、③助成を受けた後も学会活動を継続する見込みがあることです。また、本助成を受けた報告者は、研究報告を学会誌に投稿することが期待されます。大会開催校までの交通費及び宿泊費に関しては、領収書提示による実費の支給となります。領収

書の提示がない場合には、懇親会費相当額(天理大学の場合は5,000円)を支給します。

本助成制度の導入は、研究大会時の総会にて承認を受ける必要がありますので、正式なご案内は研究大会後となります。助成を希望される院生会員の方は、領収書類の保管をお願いします。

<問い合わせ先>

大会プログラム、報告要旨・報告用ペーパーの送付:

学会事務局 兵頭慎治 jarees_office@yahoo.co.jp

大会開催校における機材使用:

天理大学 五十嵐徳子 i-noriko0604@nifty.com

学会誌『ロシア・東欧研究』

投稿応募締め切り 9月末日

学会誌第39号(2010年版)への、論文、研究ノート、書評、資料紹介の原稿を募集しています。まず、ご投稿の希望を受け付けます。投稿の応募締め切りは9月末日、原稿提出の締め切りは11月末日です。

また、第39号より、会誌発行1年後にすべての原稿がJournal@rchiveでオンライン公開されることになりました。詳しくは、会誌編集委員会までお問い合わせください。新しい投稿規定、執筆要領につきましては、ロシア・東欧学会HPに近く掲載される予定です。

いよいよ研究奨励賞が導入されることとなりますので、特に若手研究者の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

(会誌編集委員長 吉井昌彦)

投稿申込・原稿送付先

ロシア・東欧学会 会誌編集委員会

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町2-1

神戸大学大学院経済学研究科 吉井研究室気付

TEL (078) 803-6844/FAX (078) 803-7293

e-mail : yoshii@econ.kobe-u.ac.jp

事務局からのお知らせ

1. 学会誌の電子アーカイブ化

(独) 科学技術振興機構 (JST) が運営するアーカイブ・サイト Journal@rchive に、最新号を除く全ての学会誌のバックナンバーが掲載されました。

将来的には、グーグル (Google) や国立情報学研究所 (NII) の論文情報ナビゲータなどの検索結果から直接リンクされる予定で、会員以外の多くが目にするため、学会誌のパブリシティが飛躍的に向上することになります。学会 HP からもアクセス可能ですので、ぜひ一度ご覧ください。

なお、学会誌のバックナンバーの販売は、従来通り、事務局にて今後も継続しますのでご利用下さい。

2. 会員名簿の送付

今回、新しい会員名簿を送付いたしました。個人情報保護に敏感な時代ではありますが、学会活動を行うにあたり、会員名簿は必要であるとの判断から改定を行いました。会員の皆様におかれましては、名簿は学会活動のみに使用することとし、取り扱いには十分にご配慮いただきますようお願い申し上げます。

住所不明により郵便物が返送されるケースが多くなっております。住所や所属等が変更されましたら、速やかに事務局までメール、郵送、FAX にてお知らせくださいますようお願いいたします。

3. 2010 年度会費納入のお願い

去る 5 月に本年度年会費のご案内を差し上げましたが、まだお支払いがお済みでない方は、お早目の納入をお願いします。規定により、1 年以上未納の方には学会誌等の送付を中断し、3 年未納となりますと理事会の承認を経て退会扱いとさせていただきますとさせていただきます。ご不明の点がございましたら、事務局までメールにてお問い合わせ下さい。会費に加えまして、ご寄付は金額に関わらずお受けしております。

ゆうちょ銀行以外の他行 (海外を含む) からご送金いただくことも可能です。その場合は、送金口座番号が異なりますのでご注意ください (巻末参照)。その際は、誠に恐れ入りますが、手数料をご負担ください。

4. 院生幹事の募集

既にご案内しておりますように、現在、院生幹事を募集しております。研究報告や論文投稿など、一定の学会活動歴のある院生会員を対象とします。若干名を公募した上で、理事会が選任します。大会開催校までの旅費 (上限 2 万円) も支給する予定ですので、ご関心のある方は事務局まで振るってご応募ください。

5. HP の刷新

今般発足した広報委員会による対外広報のあり方検討を受けて、今後、順次、HP を刷新していきたいと思っております。会員の皆様からも、広くご意見を募集しておりますので、事務局まで奮ってお寄せ下さい。

6. 入会申込書の刷新

入会申込書を刷新しました。事務局までお問い合わせ下さい。近く HP 上でも更新したいと思っております。

(事務局長 兵頭慎治)

《編集後記》

JSSEES との合同大会の円滑化、大会開催校の負担軽減、大会運営の画一化を図るため、本年度の研究大会から、大会プログラムの調整、報告用原稿の集約を事務局が一元的に行うこととなりました。至らぬ点があるかと存じますが、よろしくご協力の程、お願い申し上げます。(兵頭)

ロシア・東欧学会ニューズレター 第 21 号(2010 年 9 月発行)

《発行》ロシア・東欧学会事務局 兵頭慎治

《編集》広報委員 岡田美保

住所: 〒102-8554

東京都千代田区紀尾井町 7-1

上智大学外国語学部ロシア語学科 気付

FAX: 03-3238-3087

E-mail: jarees_office@yahoo.co.jp

HP: <http://www.soc.nii.ac.jp/roto/index.html>

ゆうちょ銀行 (加入者名: ロシア・東欧学会)

郵便局での払込: 00150-8-17731

他行からの送金: ○一九(019)店

当座預金 0177731